



人生の幸せを決めるのは知力それとも感情力？

人は知力の向上により工学や医学を進歩させ、豊かな社会をつくって幸せを追求してきました。ところが、最近では感情力が人生の幸せを決めると言われています。

IQ(=Intelligence Quotient) = 知能指数、知力を測定する数値 EIQ(=Emotional Intelligence Quotient)= 心の知能指数、感情力を測定する数値

Q IQの高い人 EIQの高い人どっちが成功する？

a IQの高い人ほど社会的に活躍できる

b EIQが高い人ほど幸せになる

c どちらが欠けても社会で成功しない

A 正解は C 社会的な活躍とIQの高さは一致しない

調査A 1940年代にハーバード大学を卒業して中年になった男性を調べたところ、IQの高さと社会的成功は関係がありませんでした。

調査B マサチューセッツ州のスラム街で育った男性を調べたところ、IQ100以上の人の10年間無職率は7%で、IQ80以下の人も7%でした。

2つの報告からは、IQの高さと社会的成功は無関係でした。

EI (感情力) を失った猿は孤独になる

野生の猿を使った脳の実験(カリフォルニア大学、精神科医レスリー・ブラザーズ)によると、EIの素になる扁桃核を切断して群れに戻された猿は、木登りやエサ取りはできたのに、仲間と仲良くできず、やがて群れから孤立しました。EIを失うと、社会と上手に交流できなくなることがわかります。EIとは社会と一緒に生きる力だったのです。

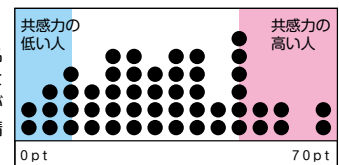
EI (感情力) は安全に生きるための力

別の報告では、扁桃核を含む側頭葉を切断された猿は本来なら怖がるはずの蛇や火に平気で近づきました(クリューヴァー・ビューシー症候群)。哺乳類は犬でも猫でも蛇や火を怖がり、避けます。人は知力が発達したため、火を道具として扱い、同時に神秘に感じ宗教的儀式的中心に置きます。EIを失った猿は生命を危険から守ることができなくなり、種の保存のため生きるのびることができなくなったと言えます。

共感性が低い人はリーダーになれない

EIの基は共感性です。皆と共通の感情が持てない人は自己主張が強くリーダーシップがとれず、クラス全体が混乱します。EIの低い人は対人関係が大切な仕事には向きません。

右図はある大学生のクラス50名の共感性分布です。高得点の人と極端に低い人がいます。共感性が低い人とは他の人と共通する感情力つまりEIが低いことです。



EI (感情力) のルーツは太古の記憶

恐怖心のような大脳辺縁系から生まれる意識下の感情は恐竜時代からの哺乳類の生命を安全につなぐ記憶から生まれていました。その記憶には生物が皆と協力し合い、社会を作り、安全で安心な日々を維持するためのノウハウがつまっていました。

意識下の感情は謎の気まぐれな感情ではなく、安全安心を保つための仕組みです。

